

ど の し た 淵

【2024・令和6年 辰年】

あけましておめでうーいぞいます

2024年は甲辰（きのえたつ）です。陰陽五行説によると「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があります。「辰」という字は、「蜃（しん、はまぐり）」の原字で、一枚貝が足を出して動いている形態を表しており、肉片などが動くという意味があります。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年だといわれています。

また、たつ（竜、龍）は十二支のなかで唯一空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きくかわる年といわれています。さまざまな意味合いからしても、2024年辰年は、昨年まで努力してきたことが実を結んで成就する年になると思います。



発行責任者

高峯公民会長
三 腰 善 行
090-1089-9432
令和6年1月4日発行



【現王様の腰掛石 看板設置】

活性化委員会の文化民生部会では、『ふるさとの史跡と伝承』の継続事業として、史跡の看板を順次設置することになっています。5年度は『現王様の腰掛石』の看板を設置しました。

泊野の地名はもとより、歴史・文化は現王様から始まったと言っても過言ではありません。京都から下って来られた現王様がお住まいなられたことから始まった泊野の歴史を大切に営々と継承していきましよう。



【薩摩のさつま】ブランドってなかに!!
町ホームページ等から抜粋して紹介します。

だかんね寺小屋

「薩摩のさつま」は元々JAさつま（現・JA北さつま）が平成17年頃から農作物や果樹の販促ブランドとして考案・使用されているものです。3年程前から若手事業者が議論を重ね「さつま町において『薩摩のさつま』以上この町を表現するフレーズはない」として、「薩摩のさつまを活用して新しい地域ブランドを立ち上げたい」とJA北さつまに相談したところ、熱い思いが届き、志に向かって一歩を踏み出し始めました。更に、その想いは町（役場）、町商工会、町観光特産品協会に届き、各種団体組織の垣根を超えた結束の下、「薩摩のさつまブランド推進協議会」が令和3年10月21日発足しました。

令和3年度には、県事業を活用し、薩摩のさつまブランド構築のため地域ブランド検討会構築実践型セミナー（全5回）を実施しました。その中で、薩摩のさつまブランドとして、ターゲットの具体化やお客様等への約束を作り上げ、令和4年3月17日に発表会を開催し、独自の認証基準をクリアした16品の商品がブランド認証されました。

※次号からも経過と認証商品を順次紹介していきます。

【1月行事予定】

- ◆ 泳ぎ初め 1日
- ◆ 二十歳の集い 4日
- ◆ 消防出初め式 7日
- ◆ 冬のあいさつこだま運動 10、13日
- ◆ 第18回 さつま町女性大会 21日
- ◆ 第23回 みやんじょ吹奏楽フェスタ 28日
- ◆ 資源ごみ収集日 17・31日
- ◆ 不燃ごみ収集日 15日
- ◆ 文書発送日 4・18日

消防出初め式

町の1年間の安全・安心を祈願して行われる新春恒例の消防出初め式は、7日8時50分から分列行進が始まります。場所は宮之城総合グラウンドです。消防団員による規律訓練や、操法訓練のほか幼年消防クラブによる規律訓練も披露されます。激励・御観覧ください。

消防団員は、地域に密着した防災のリーダーとして、地域住民に対する防火・防災意識の普及啓発を行うとともに、災害時には消火活動はもとより、風水害や地震などでの警戒活動や避難誘導など、住民の生命や財産を守るために活躍しています。特に大規模災害が発生した場合、防災の知識や技術を持った人員を多数動員できる消防団の存在はとても重要です。

きくら分団泊野部 団員紹介(団歴)

大平剛司(28)・川平光広(27)・帖佐勝彦(23)
村田泰之(22)・三腰栄治(20)・楠八重公一
(17)・松下良一(16)・梅樹真一(14)
楠八重雄司(10)・三腰真吾(10)
三腰史宏(5)・三腰誠和(3)

【小学校体育館利用】

泊野小学校体育館に最近、夜間照明がついているのにお気づきでしょうか！

町内のフットサルチームが利用しています。閉校後、体育館の利用機会がめっきり少なくなりましたが、何なりと利用されてよかつたなと思います。ついでがありましたら覗いて激励してください。週2日程度の利用の様です。

※フットサル・・・いわゆる室内サッカーです。南米の「サロンフットボール」または英国の「インドアサッカー」を起源とする。基本的には室内で行われる、サッカーに似た競技である。永らく非公式に行われ統一ルールが存在しなかったが、1989年にフットサルも国際サッカー連盟(FIFA)の所管となり、1994年に世界共通の統一ルールをまとめた。バスケットボールを子どもの体格や体力という理由で小規模にしたミニバスケットボールとは異なり、フットサルは全年齢で競技される。

【軽トラ市出店(暮市)】

町商工会では商店街の賑わいを演出すべく暮市に合わせて、さつま百縁祭りにおいて軽トラ市を開催しています。お誘いを受けて今年も千両を持っていきました。縁起物でもあり大賑わいでした。



ふるさと回顧録

『泊野に生きて』 大阪府八尾市 久木野正志

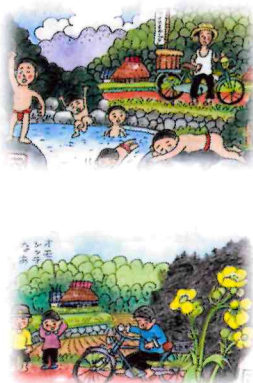
第6章 紫陽中学校時代(昭和38・4・41・3)

◆部活動・・・野球部に入部。3年生が大きく見えた。高学年になり夏休みも練習したが、金を出し合い5円のアイスクャンディーをアセノ(浅井野)の店で買って食べ、下の雲母川で魚をボール代わりに追いかけた。通学は自転車が多かった。女性もそうであった。男は裸足が多く、夏は高峯の「ドノシタブリ」でウツプイ(水泳パンツなし)で泳いで帰った。

◆関脇鶴ヶ峰・・・私が3年の時、九州場所巡業中だったと思うが町内中学から選抜し、盈進小学校の土俵で生徒が個人戦をした。その後、鶴ヶ峰関に一人ずつぶつかった。全く動かない。ビックともしなかったのが貴重な思い出です。

◆東京5輪・・・2年生の時、開催された。体育の時は講堂でテレビを観戦したこともあった。

◆校歌・・・「彩雲匂う紫尾を背に南をうけてそぞり立つ・・・」運動会では頑張ろうの気持ちで。卒業式では3年間の想い。卒業後は同窓会などで当時を懐かしみ。いつ歌っても、いつ聴いても、心にジーンとくる名校歌だと今も思っている。



次号は 第7章 宮之城高校時代(昭和41・4・44・3)をお届けします。お楽しみに!!